

平成 16 年漁期 イカナゴ新仔漁況予報

平成 16 年 2 月 17 日
香川県水産試験場

1 季節風（日平均風速）

12 月は西よりの季節風が、平年よりも強めに推移した。1 月上旬は平年よりも弱めだったが、中旬以降は再び西よりの季節風が平年より強めに推移した。2 月上旬も西よりの季節風が平年より強めに推移している（図 1）。

*** 季節風（特に西風成分）の強弱は、備讃瀬戸から播磨灘に運ばれるイカナゴ稚仔魚の量を左右し、風の強い方が分散が良く、生残が良くなる傾向がある。**

2 水温

屋島（備讃瀬戸）では、12 月上旬から中頃にかけては、平年より 0.5～1.2 高めに推移したが、12 月後半は強い季節風の影響で水温が低下し、平年並みあるいは平年より低めで推移した。しかし 1 月に入ると再び平年より高めで推移し中旬は平年より 0.6～1.0 高めに推移した。その後は季節風等の影響で水温が低下し、1 月下旬に一時平年より低めで推移したが、2 月は高めで推移している（図 2）。

なお、イカナゴの産卵盛期の水温とされる 14～12 になったのは、12 月 14 日（14.02）、12 月 18 日（13.10）、12 月 26 日（12.11）で、平年並みであるが、昨年よりは 2 週間程度遅めに推移した。

*** 水温はイカナゴ親魚の産卵時期や孵化後の仔魚に影響を与える。**

3 稚仔魚の出現状況

1 月の前半（7,9 日）後半（24,28 日）と 2 月の前半（2,9 日）にわたり、備讃瀬戸および播磨灘の 23 点で、丸特 B ネット（口径 45 cm）の鉛直曳きによる調査を実施した。稚仔魚の採集尾数を前年（平成 15 年）の結果と対比して示した（図 3）。なお、播磨灘の 2 点は過去の蓄積データが少ないため、稚仔数の評価については、残り 21 点を対象に行った。

1 月前半調査では、稚仔魚の合計採集数が 78 尾で昨年同期（116 尾）の 67%、平年（85 尾）の 92%とともに下回っていたが、1 月後半調査の採集数（69 尾）とあわせると、1 月の合計採集尾数は 147 尾で、昨年同月（145 尾）の 101%とほぼ同数であった。

しかし 2 月前半の調査では、稚仔魚の合計採集数は 9 尾で、昨年同時期（15 尾）の 60%、平年（59 尾）の 15%とかなり少なめであった。また 1 月前半と 2 月前半の 2 回を合計すると 87 尾で、昨年（131 尾）の 66%、平年（142 尾）の 61%と少ない採集量であった（図 3）。

稚仔魚の大きさ（平均全長）については、1 月前半に備讃瀬戸で採集された仔魚の平均全長は 4.2mm、播磨灘で採集された稚仔魚の平均全長は 4.4mm で、昨年同時期に比べ小さく、1 月後半に採集された稚仔魚の平均全長（4.2mm および 7.0mm）も昨年同時期に比べ小さくなっている。また 2 月前半の調査でも備讃瀬戸、播磨灘ともに平均全長は 6.1mm で前年同時期より小さくなっている（図 4）。

今期は 11 月以降水温が高めに推移し、イカナゴの産卵盛期となる水温となるのが昨年よりも 2 週間程度遅かったため、産卵盛期は昨年より遅い 12 月下旬であったと思われる。このため、1 月前半のイカナゴ稚仔魚の採集数は昨年より少なく、また稚仔魚の大きさも昨年より小さいと考えられる。2 月の稚仔魚採集数は平年よりかなり少なめであったが、1 月下旬からの強い季節風によって稚仔魚の分散が進んだためと考えられる。

4 2月上旬までのイカナゴ（親魚）の漁獲状況

高松 1月18日から込網漁を開始した。1月末までの漁獲量は32.7t（延べ26隻）で、1日1隻あたりの漁獲量は1.26tとなっている。

平成15年同期と比べると、漁獲量は47%、1日1隻あたりの漁獲量は54%となっており、産卵親魚量は前年よりも少ないと推測される。

庵治 2月4日から操業を開始した。

5 イカナゴの漁況予測

本年のイカナゴ（シンコ）の資源量は、水温、季節風、稚仔魚の採集状況、親魚の漁獲状況等から、前年より少なく、平年並みか平年よりやや少ない漁獲が予想される。

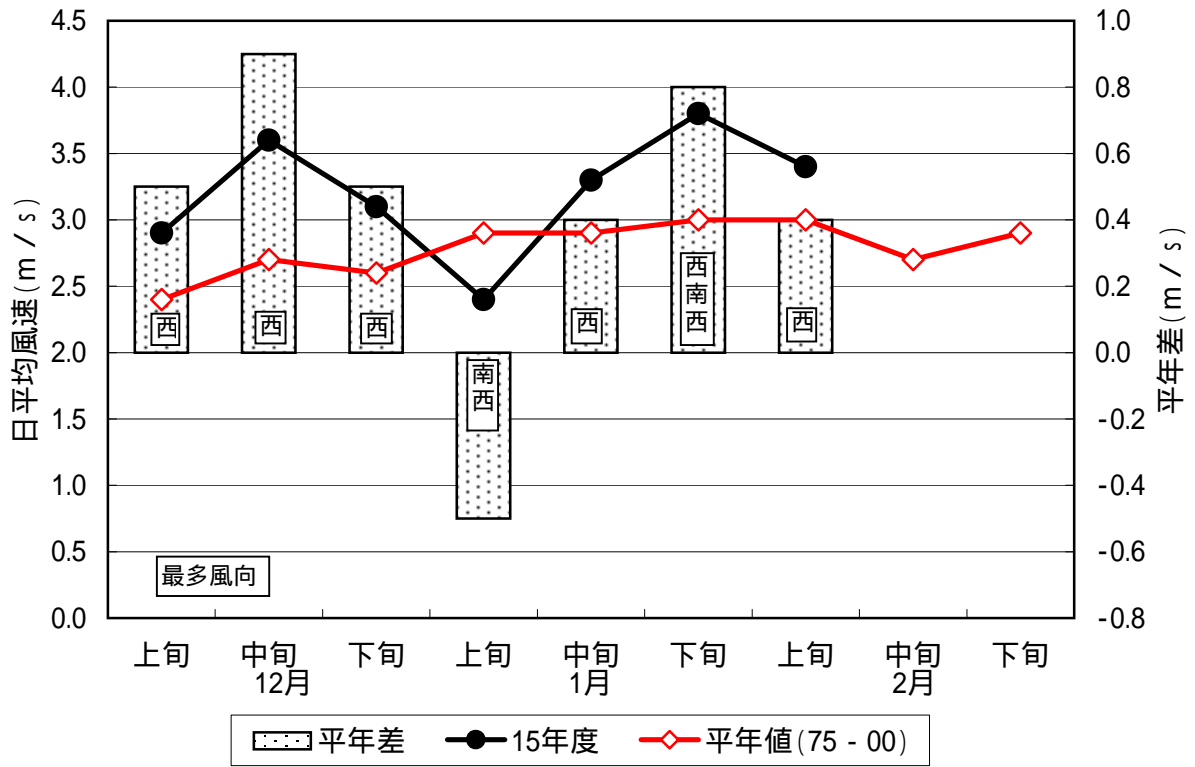


図1 日平均風速の推移(高松气象台発表)

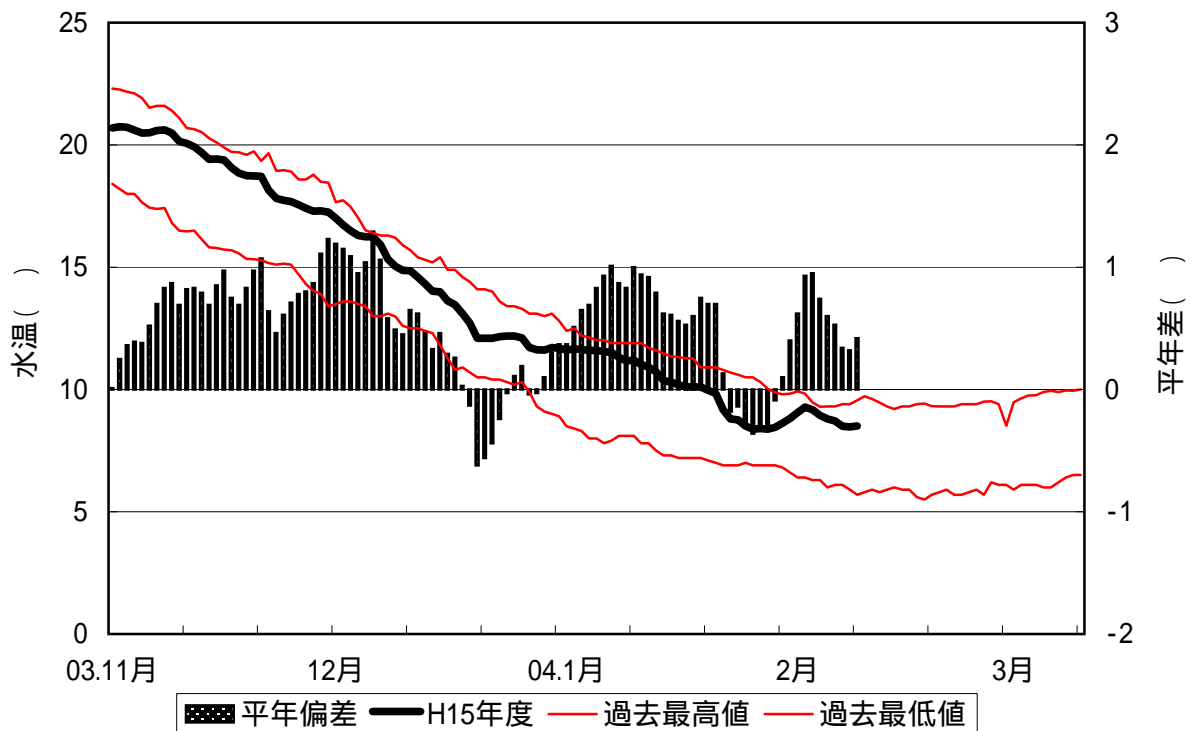


図2 平成15年度屋島湾の水温変化(水深1m)

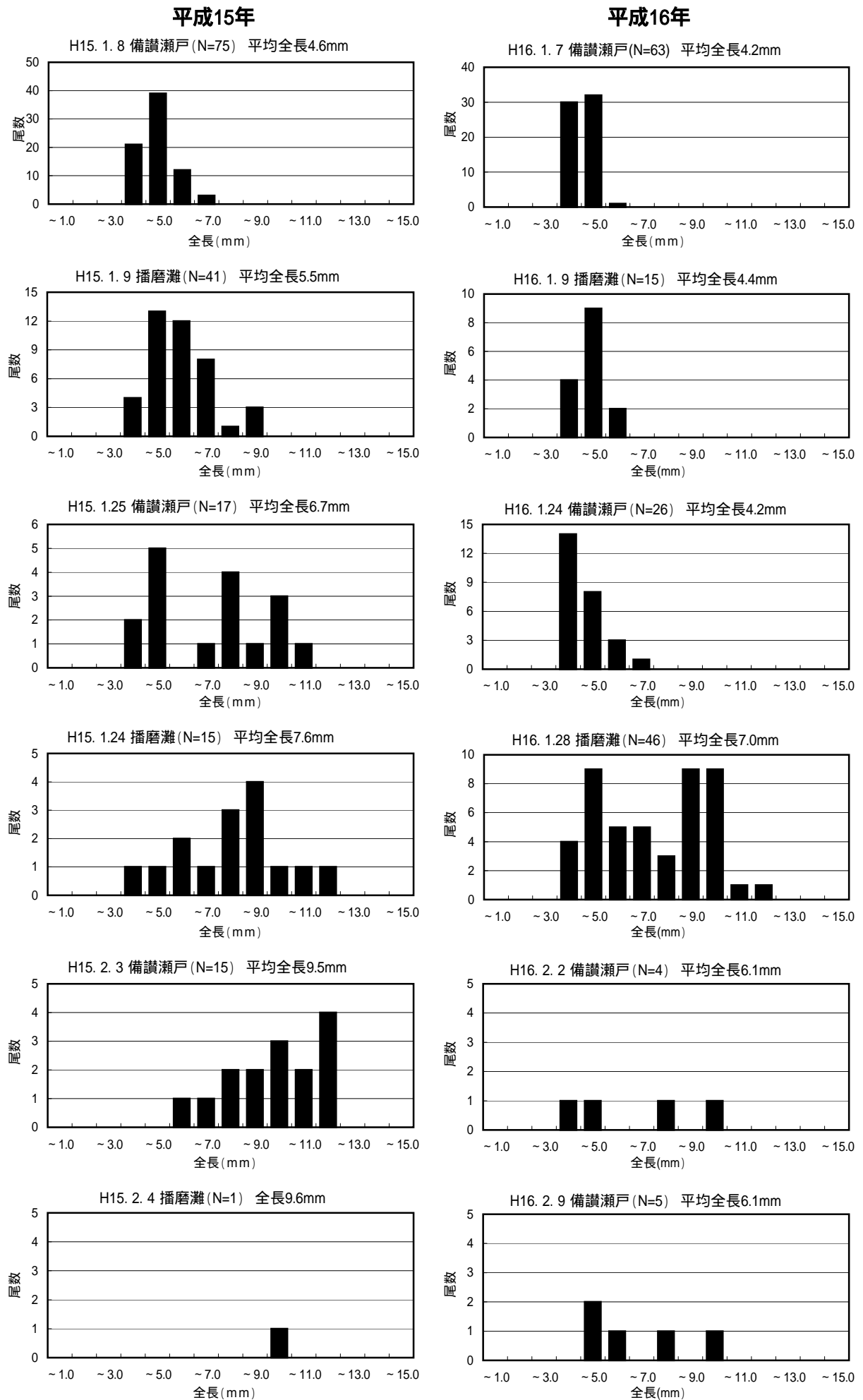


図4 イカナゴ全長組成